

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性報告日）】

前週： 令和4年第50週 令和4年12月12日(月) ～ 令和4年12月18日(日)

今週： 令和4年第51週 令和4年12月19日(月) ～ 令和4年12月25日(日)

項目		前週	今週	前週比	これまでの最大値		
感染の状況	陽性者数	①総数	14,457人	14,253人	↓	22,063人	令和4年第30週
		医療機関報告分 ^{※1}	11,814人	11,693人	↓		
		セルフテスト陽性 ^{※2}	2,643人	2,560人	↓		
	②対人口10万人（総数）	938.8人	925.5人	↓	1,433人	令和4年第30週	
	③前週との増加比（総数）	1.22	0.99	↓	18.0	令和4年第1週	
④陽性率 ^{※3}	57.8%	56.5%	↓	64.3%	令和4年第30週		
医療提供体制	⑤入院患者（陽性確定例）	入院中の患者数 ^{※4}	297人	315人	↑	368人	令和4年第31週
		（病床使用率）	61.2%	64.9%	↑	93.9%	令和3年第33週
		（確保病床数）	485床	485床			
	⑥重症患者（陽性確定例）	入院中の患者数 ^{※4}	10人	7人	↓	68人	令和3年第34週
		（病床使用率）	14.5%	10.1%	↓	146.7%	令和3年第33週
		（確保病床数）	69床	69床			

- ※1 市内医療機関等から新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム（HER-SYS）により報告があった1週間の陽性者数の合計
- ※2 自己検査で陽性となり、その旨を神奈川県に連絡・申請し、登録された方の1週間の合計（神奈川県記者発表資料の件数を基に集計）
- ※3 陽性率を算出するための検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム（G-MIS）により報告があった検査件数（速報値）の合算を用いております。
- ※4 直近の日曜日の報告数

<モニタリング項目の見直しについて>

令和4年9月26日に全国一律で発生届出対象の見直しが行われたため、モニタリング項目を再検討し、令和4年10月4日公表分からは「陽性者数」、「陽性率」、「入院患者」、「重症患者」に係る項目のみ掲載することといたしました。

<変異ウイルス検出状況>

ゲノム解析結果（川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関の解析結果を掲載）

	前週	直近 1 週間	累計
	R4.12/12 ~ R4.12/18	R4.12/19 ~ R4.12/25	R3.3/11 ~ R4.12/25
α 株（アルファ）	0件	0件	203件
β 株（ベータ）	0件	0件	0件
γ 株（ガンマ）	0件	0件	0件
δ 株（デルタ）	0件	0件	626件
o 株（オミクロン）：BA.1系統	0件	0件	581件
o 株（オミクロン）：BA.2系統	6件	0件	497件
o 株（オミクロン）：BA.4系統	0件	0件	8件
o 株（オミクロン）：BA.5系統	55件	24件	669件

※ここで記載している変異ウイルスの検出件数は、ゲノム解析によって確定された数です。

<評価>

第 51 週（令和 4 年 12 月 19 日～12 月 25 日）

第 51 週（今週）は、陽性者数は 9 週間ぶりに減少しており、前週との増加比は前週の 1.22 から今週 0.99 と減少し、9 週間ぶりに 1.0 を割っています。入院患者数は、前週 297 人から今週 315 人に増加しましたが、入院中の重症患者数は前週 10 人から今週 7 人に減少しています。

<感染の状況：直近 1 週間>

① 医療機関から報告された陽性者数は、第 39 週 3,198 名から、第 42 週 2,203 人まで 4 週連続して減少しましたが、第 43 週 2,676 人から、4,606 人→5,726 人→6,781 人→8,007 人→9,105 人→9,834 人→11,814 人と 50 週まで 8 週連続して増加しましたが、第 51 週（今週）は 11,693 人と 9 週間ぶりに減少しました。

セルフテスト陽性者数は第 39 週 495 人から、399 人→459 人→378 人と推移しましたが、第 43 週 450 人から、814 人→1,047 人→1,249 人→1,559 人→1,813 人→2,062 人→2,643 人と 50 週まで 8 週連続して増加しましたが、第 51 週（今週）は 2,560 人と 9 週間ぶりに減少しました。

医療機関報告分とセルフテスト陽性者数の総数は、第 39 週 3,693 人から、第 42 週 2,581 人まで 4 週連続して減少しましたが、第 43 週 3,126 人から、5,420 人→6,773 人→8,030 人→9,566 人→10,918 人→11,896 人→14,457 人と 8 週連続して増加しましたが、第 51 週（今週）は 14,253 人と 9 週間ぶりに減少しました。

② 対人口 10 万人あたりの陽性者数は、第 39 週 239.8 人から、第 42 週 167.6 人まで 4 週連続して減少しましたが、第 43 週 203.0 人から、351.9 人→439.8 人→521.4 人→621.2 人→709.0 人→772.5 人→938.8 人と 8 週連続して増加しましたが、第 51 週（今週）は 925.5 人と 9 週間ぶりに減少しています。

③ 前週との増加比は、第 39 週 0.81 から、0.78→0.97→0.92 と推移し、第 42 週まで 4 週連続して 1.0 以下となっていました。第 43 週は 1.21、第 44 週は 1.73 となりましたが、第 45 週 1.25 から、1.19→1.19→1.14→1.09 と第 49 週（前週）まで 5 週続けて減少傾向にありました。第 50 週（前週）は 1.22 と増加に転じていますが、第 51 週（今週）は 0.99 と再び減少に転じ、また 9 週間ぶりに 1.0 を下回っています。

④ 検査陽性率は、第 39 週 40.2%から、36.2%→36.6%→34.8%→37.7%→51.3%→49.7%→50.5%→56.7%→54.6%→57.1%→57.8%と推移し、第 51 週（今週）は 56.5%となっています。

<医療提供体制等の負荷：報告日 12 月 25 日現在>

⑤ 入院中の患者数は、令和 4 年第 1 週 23 人から毎週増加、第 7 週 335 人をピークとして第 24 週 24 人まで減少しました（第 6 波）。第 25 週 41 人から再び毎週増加し、第 31 週 368 人をピークとしてその後第 43 週 61 人まで、12 週連続して減少しました（第 7 波）。第 44 週 122 人から三度増加傾向となり、146 人→165 人→205 人→223 人→258 人→297 人、そして第 51 週（今週）は 315 人と 8 週連続して増加しています。

入院病床使用率は、令和 4 年第 1 週 4.8%から急増し、第 7 週 70.2%をピークとして第 24 週 4.9%まで減少しました（第 6 波）。第 25 週から毎週増加し、第 31 週 75.9%をピークとしてその後第 43 週 12.6%まで 12 週連続して減少しました（第 7 波）。しかし、第 44 週 25.2%から、30.1%→34.0%→42.3%→46.0%→53.2%→61.2%、そして第 51 週（今週）は 64.9%と 8 週連続して増加しています。

確保病床数は現在合計 485 床です。

⑥ 重症入院患者数は、令和 4 年に入った第 1 週は 0 人でしたが、第 2 週 1 人から第 8 週 30 人まで増加してピークとなりその後減少が続き、第 21 週から第 25 週は重症入院患者 0 人が 5 週連続しました（第 6 波）。しかし、第 26 週から再び増加が続き、第 32 週 14 人となりました。第 33 週からは毎週減

少し、第40週から第43週の4週間は1人となりました。(第7波)。第44週・第45週の3人から、第46週は1人と減少しましたが、第47週・第48週は4人、第49週は11人と増加し、第50週(前週)は10人、第51週(今週)は7人と減少しています。

重症病床使用率は、本年第3週4.3%から増加が続き、第8週の43.5%が第6波のピークとなり第9週2.9%まで減少が続き、第21週から第25週は重症入院患者数0人のため重症病床使用率も5週連続して0.0%となっていました。しかし第26週2.9%から増加が続き、第32週の20.3%を第7波のピークとして減少し、第40週から第43週は1.4%となっていました。第44週・第45週は4.3%と増加し、第46週は1.4%と減少しましたが、第47週・第48週は5.8%、そして第49週は15.9%と増加し、第50週(前週)は14.5%、第51週(今週)は10.1%と減少しています。

重症者の確保病床は現在69床です。

<変異ウイルス検出状況>

ウイルス株については、現在本市においてはオミクロン株のみの検出となっています。第51週(今週)は、オミクロン株24件中、BA.5系統が24件でした。

本市における医療機関報告分とセルフテスト陽性者分を合わせた陽性者総数は、第42週2,581人から第43週3,126人と増加に転じ、以降第50週(前週)14,457人まで8週連続して増加していましたが、第51週(今週)は14,253人と、若干ですが9週間ぶりの減少となっています。

前週との増加比は第39週から第42週まで4週連続して1.0以下となっていました。第43週は1.21、第44週は1.73と増加しましたが、第45週1.25から第49週1.09まで5週続けて減少傾向にありました。第50週(前週)は1.22と増加しましたが、第51週(今週)は0.99と再び減少に転じています。増加比が0.99とわずかではありますが、1.0を下回ったのは9週間ぶりです。

入院患者数、入院中の重症患者数は、総陽性者数に1週間遅れて第44週から増加に転じ、その後入院患者数は今週を含めて8週続けて増加し、第51週(今週)は315人でした。重症入院患者数は、第46週1人、第47週・第48週4人、49週11人と増加しましたが、第50週(前週)10人、第51週(今週)7人と減少しています。

第51週(今週)の感染の状況を示す数字は、陽性者総数をはじめとしてわずかではありますがすべて減少となっています。医療提供体制では、入院患者数は今週も増加しましたが、入院中の重症患者数は減少となっています。

重症患者ができるだけ発生しないように、発生しても医療で受け止められる(入院ができる、経過観察ができる)体制を取れるようにしておくことは、極めて重要なこととなります。そして新型コロナウイルスの医療のみならず、通常の医療・救急医療・お産などがこれまで通りに行われ、今の生活の状況を維持するためには、お一人お一人に基本的な感染症の予防に気を付けていただき、陽性者数の増加をできるだけ止めていくことが大変重要になります。

今年も残すところわずかとなってきております。暮れから新年にかけ、人の動きや集まりの機会も増加する時期ですが、感染リスクの高い所や混雑する場所・時間帯は避け、あまり大人数にならぬようゆっくりと過ごされますようお願いいたします。一方、戸外や風通しの良い所、人と人の間隔が十分あいているような所では、マスクを外し、良い空気を吸う、体を動かすといったことも健康のために大切です。大声を避ける、密な状態を避けることができれば、必ずしも「黙食」である必要もありません。

毎冬話題となる季節性インフルエンザは、一昨シーズン・昨シーズンはほぼ流行的発生はみられませんでした。今シーズンは国内外で発生数が増加しています。本市では、第50週(前週)に、流行開始の目安であるインフルエンザ定点あたり1.00人を超え、1.64人となりました(川崎市感染症週報第50週：<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/22-13-8-11-4-1-0-0-0-0.html>)「今、何の病気が

流行しているか!」)。インフルエンザも新型コロナウイルス感染症も、基本的な注意は共通です。できるだけ三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時は不織布マスクを正しくつける、閉鎖空間では換気に気をつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなどになります。また、もし発熱や嘔気・嘔吐・下痢などの症状がみられた場合には無理せず体を休めることが大切です。高熱が続く、息苦しさを感ずる、もともとの持病が悪化傾向にある場合などは、新型コロナウイルス感染症・インフルエンザに限らず早めの受診が必要です。かかりつけの先生あるいは保健所などへご相談ください。検査、受診などに関しては、川崎市ホームページ (<https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000116178.html>) などにも案内が掲載されています。

どうぞ良いお年をお迎えください。